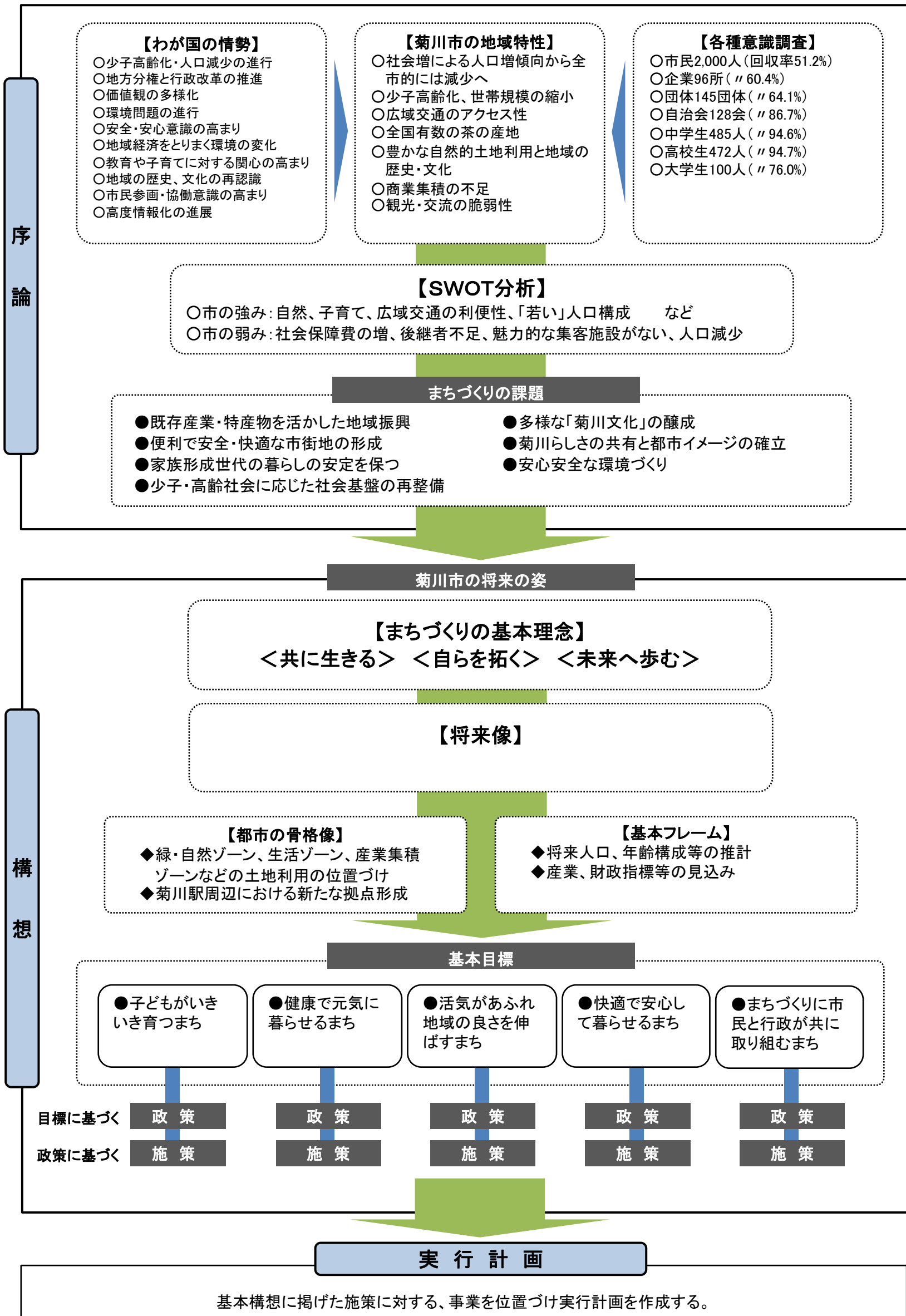
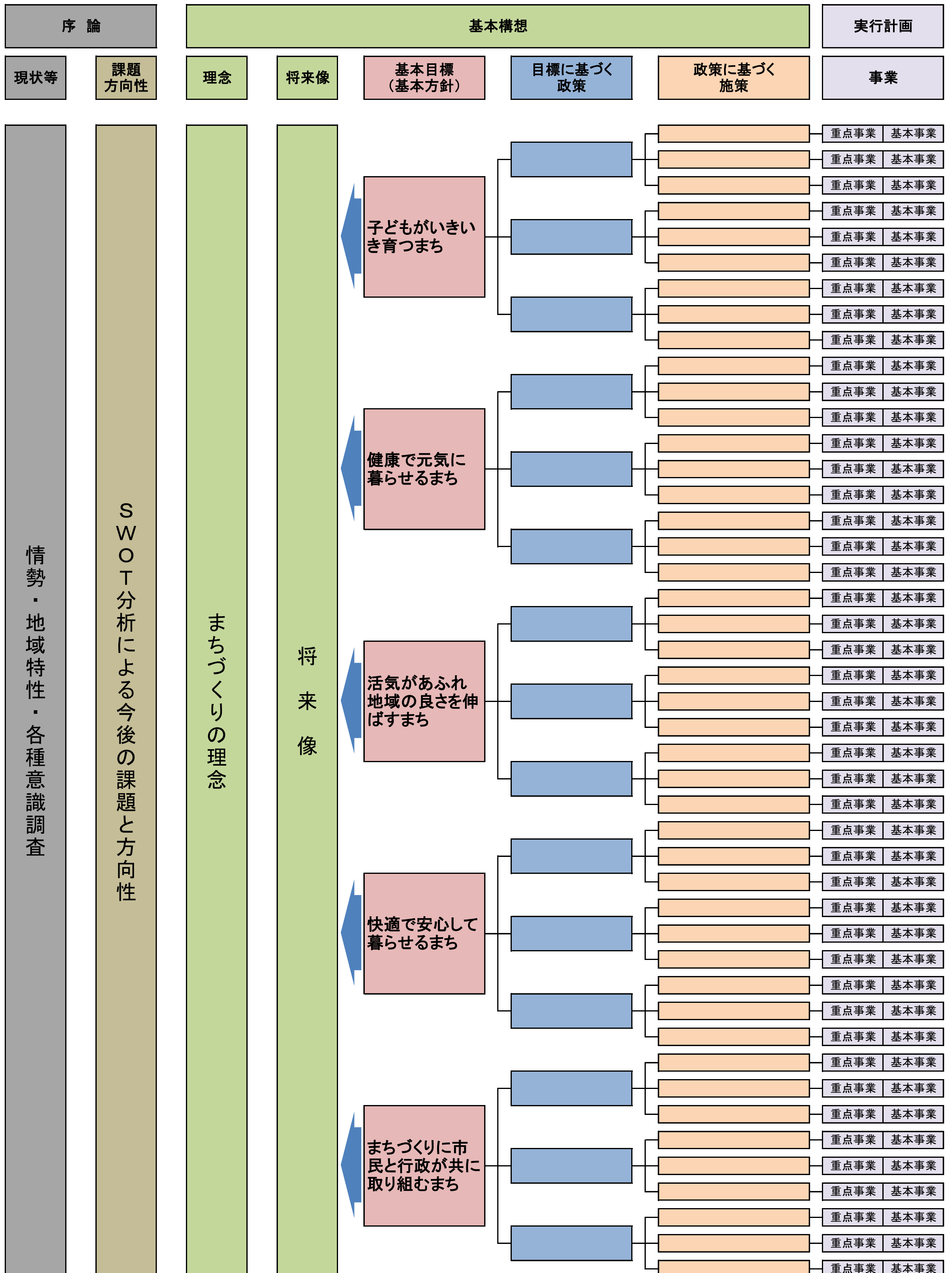


第2次菊川市総合計画「基本構想」の骨子(案)



# 第2次菊川市総合計画体系図



# SWOT分析による課題と方向性、まちづくりの基本目標・方針(案)

## <菊川市の地域特性(SWOT分析)>

### 成長戦略(強みによって機会をさらに活かす)

- ①自然資源、風景を活かした菊川市のイメージアップ
- ②環境と共生するまちづくりの実践
- ③子育てしやすい、子どもにやさしいまちとしてのブランド向上
- ④ICT環境を活かした教育力の向上
- ⑤今後の国際大会開催などを背景にした「スポーツ文化」の醸成
- ⑥健康都市としてのイメージアップ
- ⑦(内陸フロンティアを拓く取組等)広域プロジェクトの推進による市内産業の活性化
- ⑧自然資源、特産物の地域ブランドとしてのブラッシュアップや6次産業化などの展開
- ⑨「お茶」を活かしたブランドイメージの見直し、更なる発信
- ⑩地域のつながりを活かした防災、減災対策の充実
- ⑪広域交通アクセス性を活かした公共交通の充実
- ⑫菊川駅周辺等の都市拠点の充実
- ⑬鉄道駅、ICといった広域交通拠点を中心にした利便性の高い市街地形成を維持
- ⑭市民の「地域愛」の醸成や市民参加による、住み良いまちの環境維持

### 回避戦略(強みで脅威を回避・克服する)

- ①残存する自然環境の保全と共生
- ②生活コストの見直し等経済性を意識した無駄のない日常生活の実践
- ③居住や子育てに対する環境の優位性を維持
- ④伸びのび学ぶことのできる環境の維持
- ⑤各世代がスポーツに親しめる環境づくり
- ⑥既存病院の立地を活かした地域に密着した医療の充実
- ⑦地元中小企業等の支援による市内産業力の底上げ
- ⑧農業生産の体制・環境の改善
- ⑨お茶などの市の特産品による地域独自ブランドの確立と収益性の確保
- ⑩様々な災害リスクへの対応強化
- ⑪既存交通拠点の利用促進
- ⑫開発コストを抑えた駅周辺整備の促進
- ⑬通過利用者に向けた菊川市のPR等
- ⑭転入人口、若年層人口の定着による都市活力の維持

### 改善戦略(機会を逃さないように弱みを改善する)

- ①自然と調和した屋外環境(施設・公園・空き地等)の整備
- ②学力の向上、進学に対する相談機会等の充実
- ③スポーツ、地域文化に対する市民の関心を醸成
- ④市民の見守りに基づく地域コミュニティ機能の充実(地域福祉の展開)
- ⑤産業活動における新規参入の促進
- ⑥菊川の「特産物」のPR
- ⑦広域交通アクセス性を活かした市外からの人の誘導
- ⑧災害危険箇所の再確認と地域の協力に基づく整備の推進
- ⑨広域交通網とのアクセス性向上(コミバス・道路整備等)
- ⑩菊川駅周辺市街地の改善
- ⑪生産活動と居住、自然環境のバランスに配慮した市街地形成
- ⑫住民主体による地域に身近なまちづくりの展開

### 改革戦略(最悪の事態を招かないように弱みを克服し改革する)

- ①暮らしに身近な(商店、各種生活サービス機能を有する)施設の確保
- ②高等・専門性の高い教育機関の誘致検討
- ③スポーツに親しむ機会の充実、啓発活動の推進
- ④安定的な財源確保と効率的な福祉サービスの実践
- ⑤雇用促進策の展開
- ⑥農業従事者の多面的な確保
- ⑦菊川駅周辺等の再活性化の推進
- ⑧ハザードマップ等の見直し、周知
- ⑨交通機関へ利便向上の要請
- ⑩公共施設ストックの適切な維持・管理及び整備の推進
- ⑪菊川駅周辺地域の外部からの吸引力向上
- ⑫若年世代に対する菊川市の住み良さ等のPR
- ⑬安心安全な地域生活環境形成

## <まちづくりの課題と方向性(案)>

### ①既存産業・特産物を活かした地域振興

- ・既存産業力の維持や雇用の確保
- ・特産物を活かした6次産業化など新たな地域振興の展開
- 【成長戦略⑦⑧⑨/回避戦略①⑦⑧⑨/改善戦略⑤⑥/改革戦略⑤⑥⑫】

### ②便利で安全・快適な市街地の形成

- ・適正な土地利用の誘導や利便性の高い公共交通網の形成
- 【成長戦略⑩⑪⑫⑬⑭/回避戦略①⑩⑪⑫/改善戦略⑧⑨⑩⑪/改革戦略⑦⑧⑨⑩⑪】

### ③家族形成世代の暮らしの安定を保つ

- ・働く世代の定住促進支援、生活に身近な生活利便施設の確保
- 【成長戦略③/回避戦略③④⑤/改善戦略①⑪/改革戦略①④】

### ④少子・高齢社会に応じた社会環境の再整備

- ・子どもからお年寄りまですべての市民の暮らしに身近な環境の整備
- ・公共ストック・サービスの適正な維持・管理
- ・安定的な福祉、医療サービスの提供
- 【成長戦略③/回避戦略②⑥/改善戦略②③④】

### ⑤多様な「菊川文化」の醸成

- ・教育、文化、スポーツ活動などを通じて、菊川市の個性を磨く
- 【成長戦略④⑤/回避戦略④⑤/改善戦略②③/改革戦略②③】

### ⑥菊川らしさの共有と外部に向けた都市イメージの確立

- ・「住み良いまち」といった、菊川ブランドの確立と、外部への発信力の向上
- 【成長戦略①②⑥/回避戦略⑬/改善戦略⑦/改革戦略②③⑪】

### ⑦自助・共助・公助による安心安全な環境づくり

- ・住民、地域の主体による生活に身近なまちづくりの展開
- 【成長戦略②/改善戦略③④⑫/改革戦略⑩⑬】

## <まちづくりの基本目標・方針(案)>

### 【子育て・教育】③④⑤⑥⑦

#### ○子どもがいそいそ育つまち

<キーワード>

- ※子育て支援の充実
  - ※子育て環境(幼稚園・保育園等)の充実
  - ※学校教育の充実
  - ※スポーツ振興
- など

### 【医療・福祉・保健・社会教育】③④⑤⑥

#### ○健康で元気に暮らせるまち

<キーワード>

- ※医療の充実
  - ※福祉サービスの充実
  - ※社会教育の充実
  - ※健康づくりの推進
  - ※介護保険事業の推進
  - ※健康スポーツの振興
- など

### 【産業】①②③⑦

#### ○活気があふれ地域の良さを伸ばすまち

<キーワード>

- ※市内産業(農工商)の活性化
  - ※地域ブランド・特産物のPR
  - ※6次産業の展開
  - ※企業誘致の推進・創業支援体制の充実
- など

### 【インフラ・環境・防災】①②③⑦

#### ○快適で安心して暮らせるまち

<キーワード>

- ※公共交通の充実
  - ※都市拠点・市街地形成の推進
  - ※防災・減災対策の充実強化
  - ※生活・自然環境の整備と保全
  - ※公共施設の維持管理
- など

### 【コミュニティ・自助・共助・公助】①②④⑤⑥⑦

#### ○まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち

<キーワード>

- ※地域コミュニティの充実
  - ※菊川市のイメージアップ・PR
  - ※若者参加コミュニティの形成
- など



## 第2次菊川市総合計画策定に伴う「理念」について

第1次菊川市総合計画に掲げる「まちづくりの基本理念」については、合併時の「小笠町・菊川町新市将来構想」で掲げたまちづくりの理念を継承しています。

現行の総合計画に掲載される、3つのまちづくりの理念、「共に生きる」「自らを拓く」「未来へ歩む」については、平成15年度に「小笠・菊川町任意合併協議会」において定められたものになり、新市におけるこれからのまちづくりのための原理、原則、精神的支柱などの意味で掲げられたものになります。合併後より策定された第1次菊川市総合計画では、この「まちづくりの理念」を継承しています。

「まちづくりの理念」については、まちづくりを進めていく上での基本的・骨幹的なものになるため、市がまちづくりを推進していく道しるべとなる「まちづくりの理念」が、総合計画の期間で毎回変わることは、好ましくないと考えており、市が誕生した時に考えられたまちづくりの理念を継承していくこととします。

### Ⅲ. まちづくりの理念

これまでのまちづくりはどちらかというと行政主導型で進められてきましたが、これからは本格的な市民主導型の“地域づくり・人づくり”を進めていきます。

この理念は、新市のまちづくりを推進する際の原則を示すものであり、新市における、これからのまちづくりにおいて、この考え方を基本とします。

#### 新しいまちづくりの“3つの理念”

- <sup>とも</sup><sub>い</sub> **共に生きる** <共生と協働>
  - 市民すべてが、地域の人や自然と共に生きるという意識を高め、顔のみえる関係を基本としながら、協調・協力して互いのため地域のために働くことを重視します。
- <sup>みずか</sup><sub>ひら</sub> **自らを拓く** <自立と交流>
  - 自分たちのまちは自分たちで創るという自己責任を踏まえた考えのもとに、自立した都市をめざすこと、ならびに生涯学習や幅広い世界との交流により、自らについてより豊かな考え方を拓くことを重視します。
- <sup>みらい</sup><sub>あゆ</sub> **未来へ歩む** <継承と発展>
  - これまでに培った地域の歴史・文化・産業をふまえるとともに、新たな視点による発展を加え、未来に向かって一歩一歩確実に歩みをすすめることを重視します。

<出典：小笠町・菊川町新市将来構想より（3頁）>

## 第2次菊川市総合計画策定に伴う「将来像」について

平成28年7月31日に開催された、第4回菊川市総合計画審議会において、事務局から7案の「将来像」を提出しました。その案を基に、菊川市総合計画審議会委員のみなさまから、意見や提案をいただきました。

委員のみなさまからいただいた意見や提案を基に次の将来像を提案させていただきます。提案した将来像については、現段階では「仮称」であり、菊川市総合計画審議会での最終の議論し決定していきたくと考えています。

### 1. 第2次菊川市総合計画に掲げる「将来像」(案)

#### 【案1】「みどり ときめき たしかな未来 菊川市」

菊川市は、豊かな自然環境を持つ、鮮やかな緑に包まれた地域です。「みどり」は、自然・お茶・農産業・芽吹き(誕生)・若さ・活力・郷土・安全安心などが連想され、その一つひとつが、まちづくりに必要なキーワードでもあります。

この「みどり」を活かし、市の発展性、将来への希望、恋愛、結婚、生活など喜びや期待に心がおどるようなまちづくりを目指します。

また、これからの菊川市の未来が、魅力があり、幸せな生活環境、「住んでよかった、住みたくなるまち」として、これからも未来へ繋げ、継承し、持続可能なまちを将来像とし、まちづくりを進めていきます。

この将来像は、第2次菊川市総合計画の計画期間である平成37年(西暦2025年)の「あるべき姿」として設定しまちづくりを進めていきます。

「みどり」	自然・お茶・農産業・芽吹き(誕生)・若さ・活力・郷土・安全安心など、あふれる自然、大切にしたいふるさと、良好な環境をイメージした言葉で、合併時の新市将来構想や第1次菊川市総合計画からも継承するものになります。
「ときめき」	これからの市の発展性、将来への希望、恋愛、結婚、人口増などをイメージしています。
「たしかな未来」	菊川市をこれからも未来へ繋げ、継承し、持続していくことをイメージしています。

#### 【案2】「みどり げんき しあわせ ～未来へつなごう 菊川～」

菊川市は、豊かな自然環境を持つ、鮮やかな「みどり」に包まれた地域です。

この良好な環境・地域性を活かし、子育て、経済、安全など様々な面において活性化することにより子どもから高齢者、市全体が「げんき」なまちとして、こころが満ち足り、「しあわせ」な生活環境、住んでよかった、住みたくなるまちを目指します。

この将来像は、第2次菊川市総合計画の計画期間である平成37年(西暦2025年)の「あるべき姿」として設定しまちづくりを進めていきます。

「みどり」	自然・お茶・農産業・芽吹き(誕生)・若さ・活力・郷土・安全安心など、あふれる自然、大切にしたいふるさと、良好な環境をイメージした言葉で、合併時の新市将来構想や第1次菊川市総合計画からも継承するものになります。
「げんき」	これからの菊川市が様々な面において活性化することや、前向きにまちづくりをしていく、市民はもとより、市全体が健康なまちであることを意味しています。
「しあわせ」	市民の皆さまが、これからのまちについて、こころが満ち足り、幸せな生活環境、「住んでよかった、住みたくなるまち」として認知していただくことをイメージしています。

## 2. 総合計画審議会委員からの意見・提案

## ◆ みどり ときめき 輝く未来 菊川市

「みどり」は、自然・お茶・農産業・芽吹き（誕生）・若さ・活力・郷土・安全安心などをイメージした言葉で、合併時の新市将来構想や第1次菊川市総合計画からも継承するものになります。

「ときめき」は、これからの市の発展性、将来への希望、恋愛、結婚、人口増などをイメージしています。

「輝く未来」は、これからの菊川市の未来が、魅力があり、幸せな生活環境、住んでよかった、住みたくなるまちとして、明るく幸せで、住みやすいまちづくりを進めていくことをイメージしています。

【委員】 提案の中では、この将来像がよい

## ◆ ずっとあんしん ぐらしやすいまち きくがわ

「ずっとあんしん」は、子どもから高齢者まで、子育て、教育、就職、家庭、生活など、生涯の生活を安心して過ごすことを表しています。

「ぐらしやすい」は、安心して暮らせる環境を今まで以上に暮らしやすくすることを意味します。

【委員】 市長が提唱する「安心、安全なまちづくり」にも合い、余計な語句も無く小学校低学年でも理解できる。

## ◆ “未来へつなげ” 輝く「笑顔」咲き誇る みどりの都市 きくがわ

「未来へつなげ」は、よき風土、環境、地域・地元愛、魅力など、みんなが生まれ育った菊川を未来へつなげることを意味しています。

「輝く「笑顔」咲き誇る」は、幸せな生活や幸せなまちをつくる上で必要な笑顔を絶やさない明るい幸せな生活環境をつくることをイメージ、そのイメージを芽吹かせ開花させ、今以上に市内在住の皆さまはもとより、市外の方にも認めていただくことをイメージしています。

「みどりの都市」は、自然・お茶・芽吹き（誕生）・若さ・活力・郷土・安全安心などをイメージした言葉で、合併時の新市将来構想や第1次菊川市総合計画からも継承するものになり、田舎と都会の良いところを併せ持つ、豊かな自然に恵まれ鮮やかな緑に包まれたこの地域で、人づくり、産業の発展、活力があり安心して平和に暮らせる、暮らし続けるまちを目指すことを意味します。

【委員】 みんなが笑顔で暮らせるまちがいつまでも続くイメージ

## ◆ みどり ときめく たしかな未来 菊川市

「みどり」は、自然・お茶・農産業・芽吹き（誕生）・若さ・活力・郷土・安全安心などをイメージした言葉で、合併時の新市将来構想や第1次菊川市総合計画からも継承するものになります。

「ときめく」は、これからの市の発展性、将来への希望、恋愛、結婚、人口増などをイメージしています。

「たしかな未来」は、菊川市をこれからも未来へ繋げ、継承し、持続していくことをイメージしています。

【委員】 案1と案3を組み合わせ、「ときめき」という名詞より、「ときめく」という動詞の方がリズムカル。「輝く」より「たしかな」の方が意味としても深い

## ◆ 「みどり」「安心」「共創」の街 菊川 この街に生きる

「みどり（自然）」は、自然の象徴として

「安心（生活）」は、菊川の売りとして

「共創（志）」は、市民一人ひとりの決意であり、今、菊川に求められている市民資本として

【委員】 それぞれの案もよいが、他市と比べ差別化がありません。文言は体言止めで歯切れとリズムは良いがインパクトが出ません。美辞麗句で埋め尽くされ現実味がない。他市の多くも行政目線の将来像で市民はあまり関心がなく他人事になっています。将来像は市民の決意表明であることから、他市との差別化、インパクト、菊川の現実と危機感、ピンチをチャンスに変える市民一人ひとりのたくましが表現された案を選んでください。

## ◆ みどり げんき しあわせ ～未来へつなごう 菊川のまちづくり～

「みどり」は、あふれる自然、大切にしたいふるさと、良好な環境をイメージしています。

「げんき」は、これからの菊川市が様々な面において活性化することや、前向きにまちづくりをしていく、市民はもとより、市全体が健康なまちであることを意味しています。

「しあわせ」は、市民の皆さまが、これからのまちについて、こころが満ち足り、幸せな生活環境、「住んでよかった、住みたくなるまち」として認知していただくことをイメージしています。

【委員】 「みどり」あふれる自然、大切にしたいふるさと、良好な環境など  
「げんき」活性化、前向き、健康など  
「しあわせ」地方自治の本旨「住民の福祉のこう進」＝しあわせ  
このキーワードを基に作成しました。

## ◆ みどり豊かな協働のまち 菊川

## ◆ みどり豊かな共創のまち 菊川

一人ひとりが市民として菊川に誇りを持ち、役目を持ち、持続可能なまちとしての仕組みを創り、運営するイメージ。

そこには、財産である豊かな自然、茶畑を活用した資本づくり、高齢者や子どもが安心できる貧困のない社会システム、そして若者がチャレンジできる雰囲気づくりをイメージ。

【委員】 「未来」は、明日も未来なので、キーコンセプトの中に入れない方がいいかと思えます。  
「都市」については、いわゆる都会的なものは目指さない方がいいと思うので、入れない方がいいと思えます。